

## 「あざらしっ子」：サリドマイド事件を振り返る

アストギク・ホワニシャン

1957年にドイツのグリュネンター社によってサリドマイドが開発され、サリドマイド系睡眠薬が世界40カ国以上で販売されていた。「安全な睡眠薬」として宣伝されていたこの薬の影響で、1950年代の終わりから1962年にかけて、世界では一万人程度の四肢・聴覚などに障害がある子どもが生まれ、これは「サリドマイド事件」として知られるようになった。

本報告では、日本における「サリドマイド事件」に焦点を当て、本事件がもたらした社会的・政治的变化、「作られた障害」をめぐる言説、「サリドマイド児」の捉え方、また「サリドマイド児の親」について考察する。